

# 「運営サポーターアンケートの評価」の報告

運営サポーターアンケート運営部会  
部会長 中野 朋和

## 方法

調査対象：520名（2024年1月23日時点の運営サポーター登録者数）

調査方法：Google フォーム

調査期間：2024年1月9日～1月23日

有効回答：210件（有効回答率40.4%）

## 主な結果

### 1. 基本属性

#### (1) 回答者の年齢と資格取得後の年数

回答者の年齢は、40歳代が最も多く96名（45.7%）、次いで50歳代が60名（28.6%）だった。介護福祉士資格を取得してから現在までの期間は、20年以上が最も多く84名（40.0%）、次いで15～20年未満が43名（20.5%）だった。

表1 回答者の年齢と資格取得後の年数 n=210

|        | 件数 | (%)     |          | 件名 | (%)     |
|--------|----|---------|----------|----|---------|
| 年齢     |    |         | 資格取得年数   |    |         |
| 20～29歳 | 3  | ( 1.4)  | 1年未満     | 2  | ( 1.0)  |
| 30～39歳 | 24 | ( 11.4) | 1～5年未満   | 11 | ( 5.2)  |
| 40～49歳 | 96 | ( 45.7) | 5～10年未満  | 33 | ( 15.7) |
| 50～59歳 | 60 | ( 28.6) | 10～15年未満 | 37 | ( 17.6) |
| 60～69歳 | 24 | ( 11.4) | 15～20年未満 | 43 | ( 20.5) |
| 70歳以上  | 3  | ( 1.4)  | 20年以上    | 84 | ( 40.0) |

## (2) 回答者の職種、勤務先

回答者の勤務先での職種は、「介護福祉職」が最も多く 89 名 (42.4%)、次いで「管理者等」48 名 (22.9%) だった。勤務先の運営主体は、「社会福祉法人」が最も多く 77 名 (36.7%) であり、次いで「株式会社等」が 50 名 (23.8%) だった。

表 2 回答者の職種、勤務先 n=210

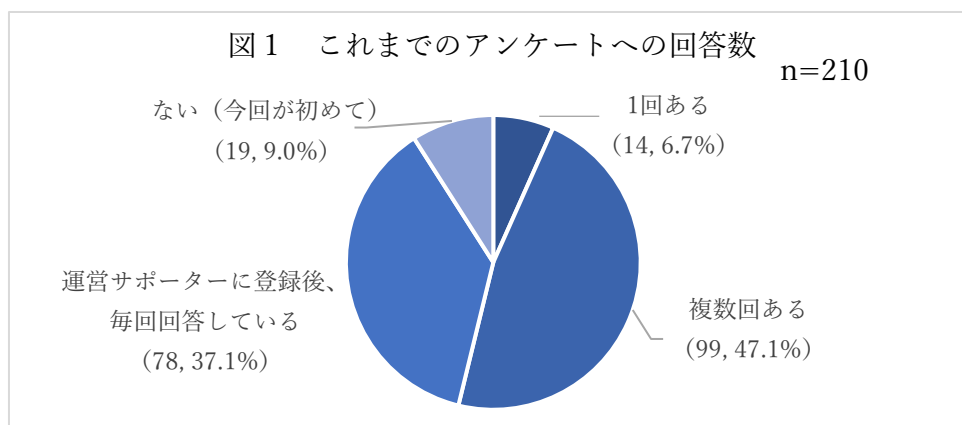
| 職種       | 件数 (%) |        | 運営主体                                    | 件名 (%) |        |
|----------|--------|--------|---|--------|--------|
|          | 件数     | (%)    |   | 件名     | (%)    |
| 介護福祉職    | 89     | (42.4) | 国、地方公共団体等の公的機関                          | 10     | (4.7)  |
| 相談援助職    | 11     | (5.2)  | 社会福祉法人                                  | 77     | (36.7) |
| 介護支援専門員等 | 25     | (11.9) | (一般・公益) 財団・社団法人、宗教法人、独立行政法人、学校法人等の非営利法人 | 26     | (12.4) |
| 管理者等     | 48     | (22.9) | 医療法人等、病院・診療所を開設する法人及び個人                 | 43     | (20.5) |
| 事務職      | 6      | (2.9)  | 株式会社、有限会社 (特例有限会社)、合同会社、合資会社、合名会社等の営利法人 | 50     | (23.8) |
| 養成校教員    | 15     | (7.1)  | 生活協同組合、農業協同組合、企業組合等の協同組合                | 2      | (1.0)  |
| その他      | 16     | (7.6)  | その他                                     | 2      | (1.0)  |

注 「介護福祉職」：介護職員、訪問介護員、生活支援員等 ※直接介護を行う職種  
「相談援助職」：生活相談員、支援相談員、相談支援従事者等  
「介護支援専門員等」：介護支援専門員、計画作成担当者、サービス管理責任者  
「管理者等」：管理者、管理責任者、所長、施設長等

## 2. 運営サポーターアンケートの内容について

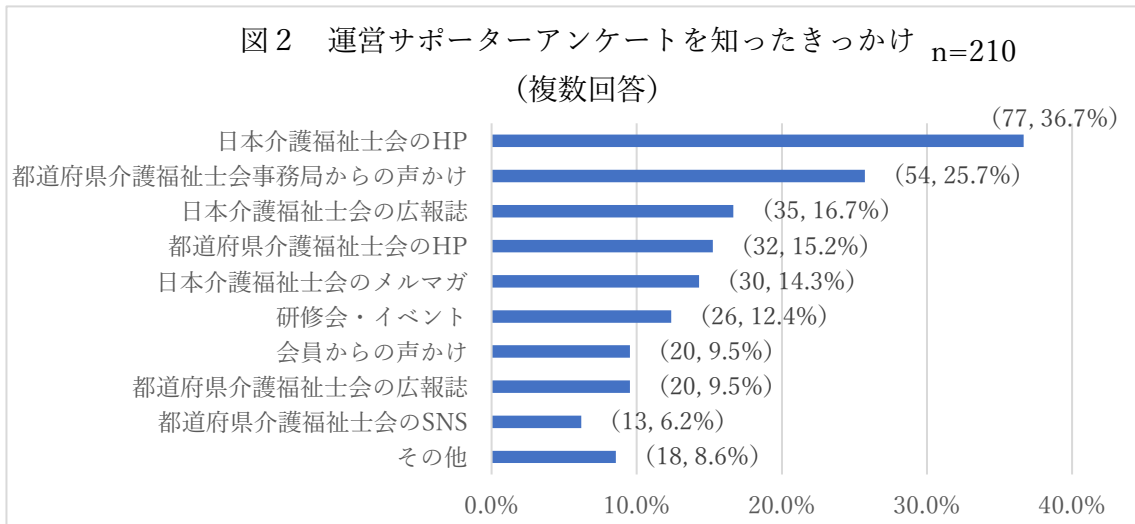
### (1) これまでの運営サポーターアンケートへの回答数

「運営サポーターアンケートに回答したことがありますか?」と質問したところ、「複数回ある」99 件 (47.1%) が最も多かった。



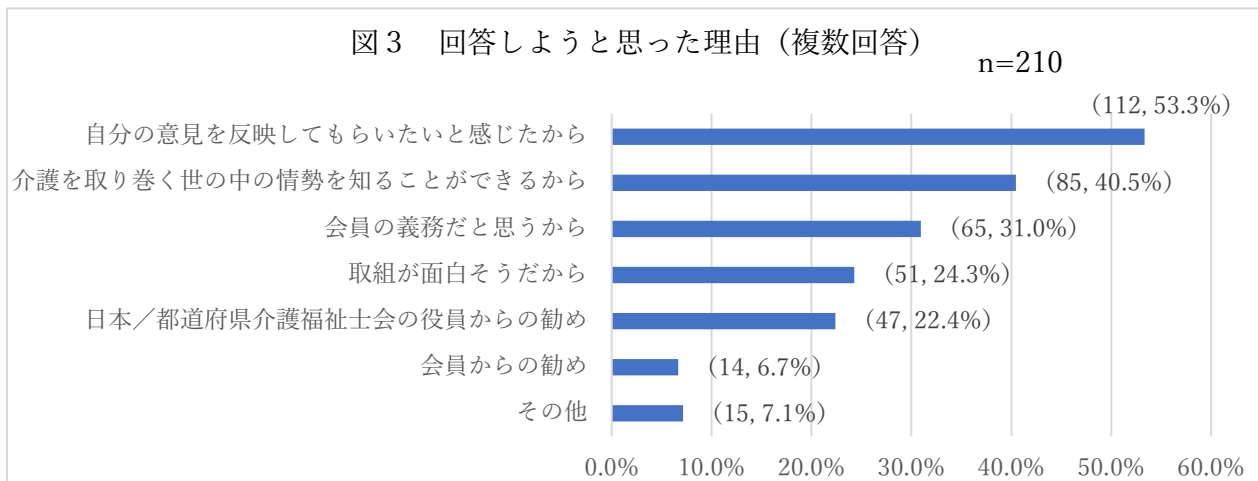
### (2) 運営サポーターアンケートを知ったきっかけ

「運営サポーターアンケートを何で知りましたか?」と複数回答で質問した。最も多かったのは「日本介護福祉士会の HP」77 件 (36.7%) であり、次いで「都道府県介護福祉士会事務局からの声かけ」54 件 (25.7%) だった。



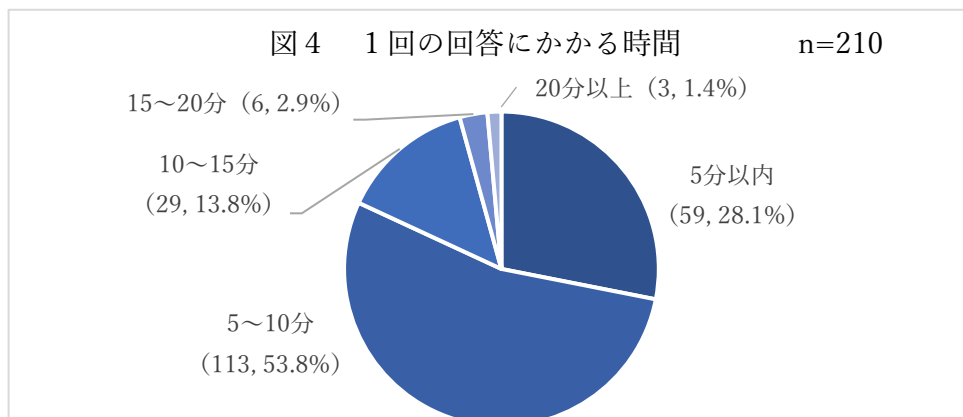
### (3) 運営サポーターアンケートに回答しようと思った理由

「運営サポーターアンケートになぜ回答しようと思いましたか？」と複数回答で質問した。最も多かったのは「自分の意見を反映してもらいたいと感じたから」112件(53.3%)であり、次いで「介護を取り巻く世の中の情勢を知ることができるから」85件(40.5%)だった。



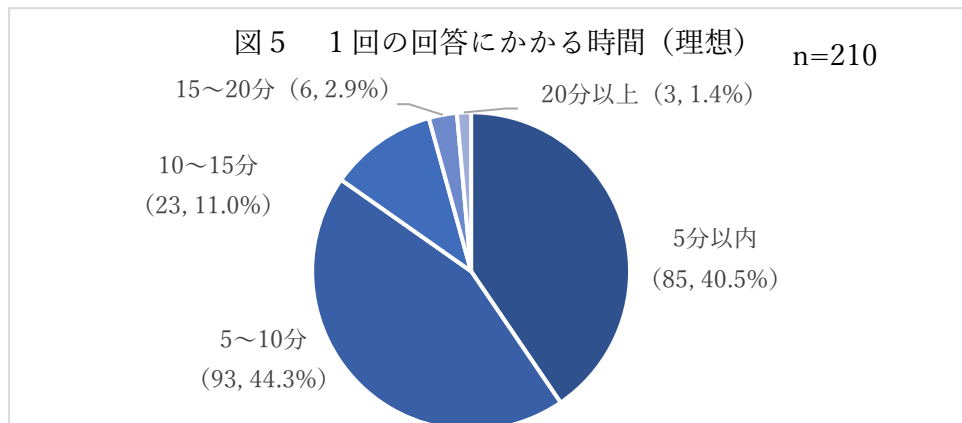
### (4) 1回のアンケートの回答にかかる時間

「1回の運営サポーターアンケートの回答にかかる時間はどれくらいですか？」と質問したところ、「5～10分」113件(53.8%)が最も多かった。



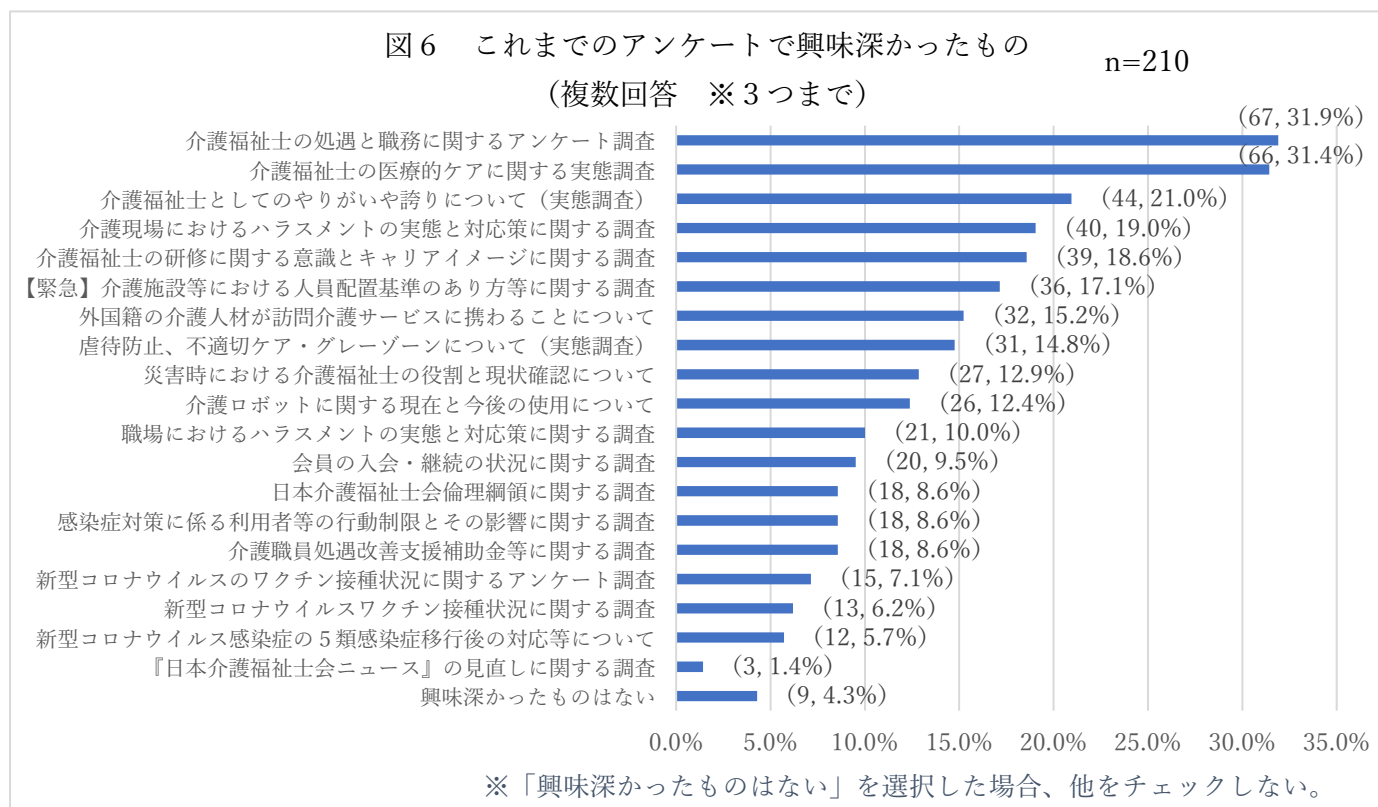
### (5) 1回のアンケートの回答にかかる時間（理想）

「1回の運営サポーターアンケートの回答にかかる時間はどれくらいがよいですか？」と質問したところ、「5～10分」93件（44.3%）が最も多かった。次いで、「5分以内」85件（40.5%）だった。



### (6) これまでのアンケートで興味深かったもの

「今までのアンケートで、興味深かったものは何ですか？」と複数回答（3つまで）で質問した。最も多かったのは「介護福祉士の処遇と職務に関するアンケート調査」67件（31.9%）であり、次いで「介護福祉士の医療的ケアに関する実態調査」66件（31.4%）だった。



### (7) 今後取り入れてほしいアンケートの内容

「今後取り入れてほしいアンケートの内容がありましたら、お聞かせください」と自由記述式で質問した。回答を類似する内容で分類し、主な意見を以下に整理した。なお、明らかな誤字は

修正するとともに、1つの回答の中に複数の内容が含まれている場合には分割した。

### ○会の取組や会員確保

- ・ 職能団体としてのこと。
- ・ 介護福祉士の認知度、必要度の調査
- ・ 都道府県介護福祉士のイメージ・入会に関すること
- ・ 入会促進にあたり、現会員さんの入会のきっかけ、感じているメリット、期待する会員特典などを知りたい
- ・ なぜ介護福祉士会へ加入しないのか。原因は何か。対策は何が必要か等。
- ・ 会員獲得
- ・ 高校新卒会員確保策
- ・ 職場の入会率について
- ・ 自職場においての介護福祉士の加入率など、会員を増やしていくための提案など
- ・ 人材確保と養成校減少にかかる介護福祉士の取り組み
- ・ (日本・都道府県) 介護福祉士の開催する研修やイベントなどで行ってみたいと思うものは何か? ※〇〇県のこんな研修が面白かったなど

### ○人材育成

- ・ 介護職員の接遇
- ・ 人材育成
- ・ 職場内での新人職員への指導システムやそれに携わる先輩職員の指導のあり方について
- ・ 加算のために資格をとらせる。取得したスタッフの専門性を伸ばせるような環境が整っている施設、事業所がどのくらいあるのか?

### ○処遇や働き方等

- ・ 年収について
- ・ 最低賃金引き上げと介護報酬とのアンバランスについて
- ・ 介護福祉職の処遇に満足がいつているか、について
- ・ 働き方
- ・ ライフワークバランスについて
- ・ 職場におけるストレスチェック(人間関係)
- ・ チーム運営
- ・ ストレスを感じた時の対処方法
- ・ 意欲向上の取り組みについて

### ○介護報酬

- ・ 処遇改善加算の実態
- ・ 改定に伴う各方面の動き。
- ・ 新年度報酬改定後の介護福祉士の職務内容や処遇にどのような影響があると思うか、会員の意見を聞いてみたい。
- ・ 『介護保険法の改正についての意見』について、アンケートを実施してほしい。

### ○介護人材

- ・ 人材確保
- ・ 人員配置 人材不足
- ・ 外国籍の介護者受入れ状況について

### ○さまざまな介護福祉分野における実態等について

- ・特養や老健における介護現場の実態について
- ・介護福祉士における障害福祉分野での労働実態と処遇等実態調査等
- ・医療機関(病院)で働く介護福祉士に対しての調査。
- ・介護福祉士は事業所だけではなく病院(医療機関)でも活躍しております。病院勤務の介護福祉士の実態調査をおこない状況を把握して行政に働きかけて欲しいと常々おもっております

### ○介護福祉士の専門性、介護福祉を取り巻く課題等

- ・介護福祉士の質の向上について
- ・介護職の地位向上に向けた取組
- ・介護福祉士がどの程度の知識を活かして業務に当たっているのか
- ・介護の3M（魅力・モチベーション・守りたいもの）を教えてください
- ・時代の変動に合わせた介護福祉士の現状について
- ・職場における、介護福祉士がいる意味とは。
- ・多職種連携について
- ・地域との連携等について
- ・共生社会の実現に向けての人材の専門性や理解を広げていく活動にたいする意見など
- ・認知症の方と介護福祉士と多職種との違いや役割など
- ・8050 問題、ヤングケアラーについて
- ・介護過程の展開状況
- ・生産性向上のとらえ方の理解や実践状況
- ・生産性の向上について、科学的介護について
- ・ICT 化・DX への取り組み。LIFE 活用方法

### ○研修関係

- ・ファーストステップ研修に関するアンケート
- ・介護福祉士の研修受講実態調査

### ○教育等

- ・介護福祉士養成施設において、科学的介護情報システム（LIFE）に関する授業の実態調査、介護現場の ICT・DX 化に対応していくための授業の実態調査を行ってほしい。
- ・介護福祉職の再進学や職種転換に関するアンケート（私自身、昨年秋から社会福祉士取得を視野に入れて通信制大学の福祉専攻に編入学したことから、似たような立場の会員がいるのか気になりました）

### ○災害

- ・震災の意識
- ・震災支援について
- ・災害時の役割
- ・災害対応について
- ・災害被災地へ派遣要請があった場合どのようなバックアップがあれば少しでも安心して行こうと考えるか。

### ○その他のテーマ

- ・アンケートとして行うのが難しいかもしれませんが、身体拘束について「この対応を身体拘束にとらえられてしまうと介護現場では困る」といった事例が地域によって差があるのではないかと？他都道府県などで認められているものが自分たちの所では身体拘束と言われるといった事例が聞こえてくる。
- ・『気候変動による介護への影響について感じる』をテーマにアンケートを実施してほしい。
- ・課題について
- ・高齢者を金づるとしか思っていない経営者が多い為、そういう要求を経営者からされていないかどうか。

### ○運営サポーターアンケートの内容、実施方法等

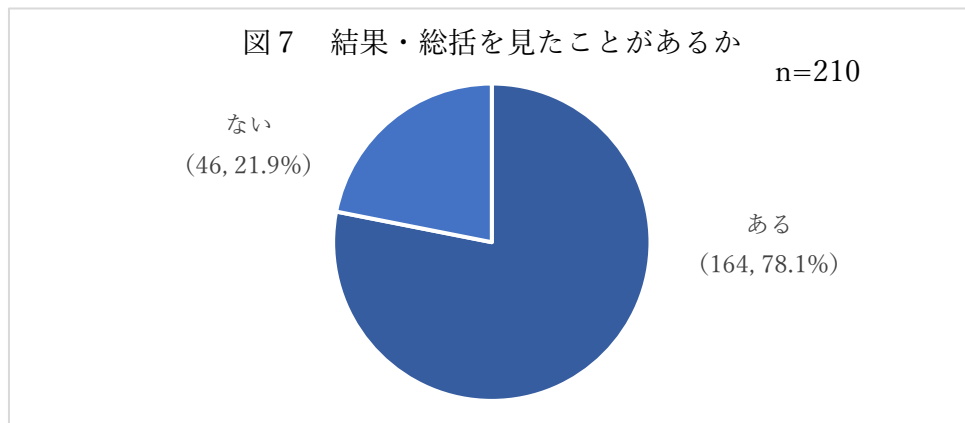
- ・意見箱的な質問事項をもっと増やしていき、現場で働いている者たちの声を今まで以上に吸い上げて行って欲しい。
- ・過去のアンケートと同内容を実施、比較検証。現状の課題感について。
- ・アンケートの内容によるが、介護福祉士会員と非会員、学生などへのアンケート比較。

### ○特になし

- ・特にありません。必要時にアンケートをとっていると思うので、その都度、時間のある時に答えています。

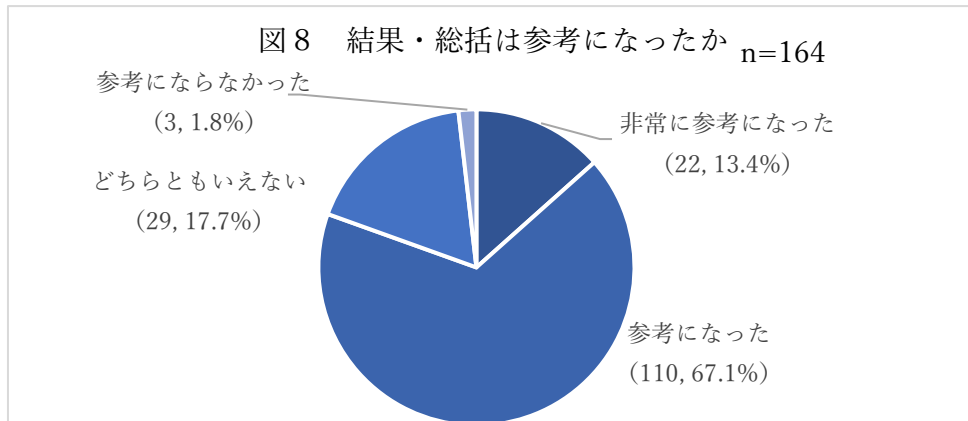
### (8) 回答したアンケートの集計結果・総括を見たことがあるか

「ご自身が回答した運営サポーターアンケートの集計結果および総括をご覧になったことはありますか？」と質問したところ、「ある」164件（78.1%）、「ない」46件（21.9%）だった。



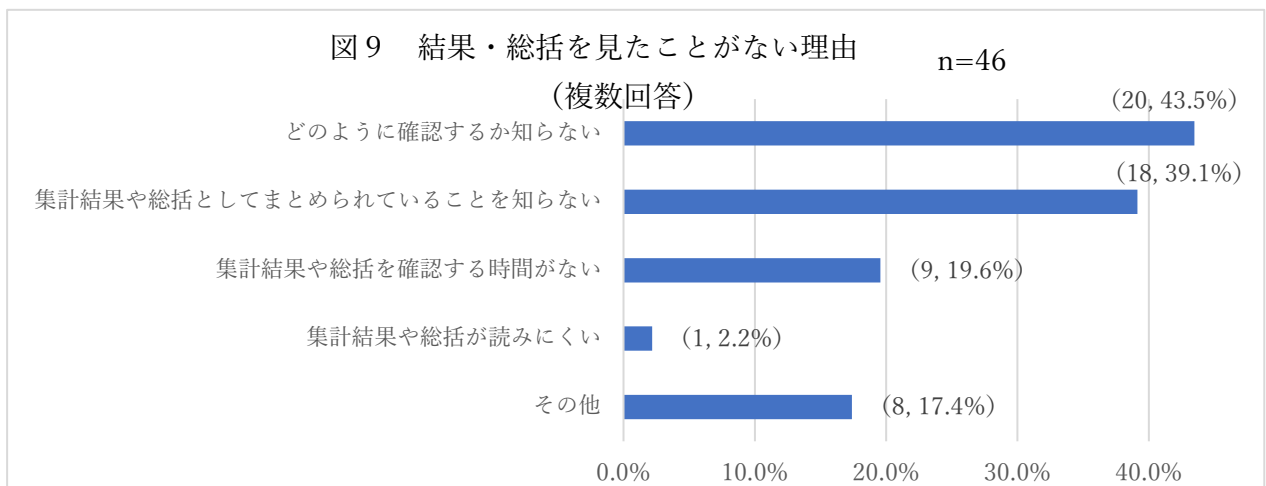
### (9) 集計結果や総括は参考になったか

ご自身が回答した運営サポーターアンケートの集計結果および総括を見たことが「ある」と回答した方を対象に、「ご覧になった集計結果および総括は参考になりましたか？」と質問したところ、「参考になった」110件（67.1%）が最も多かった。



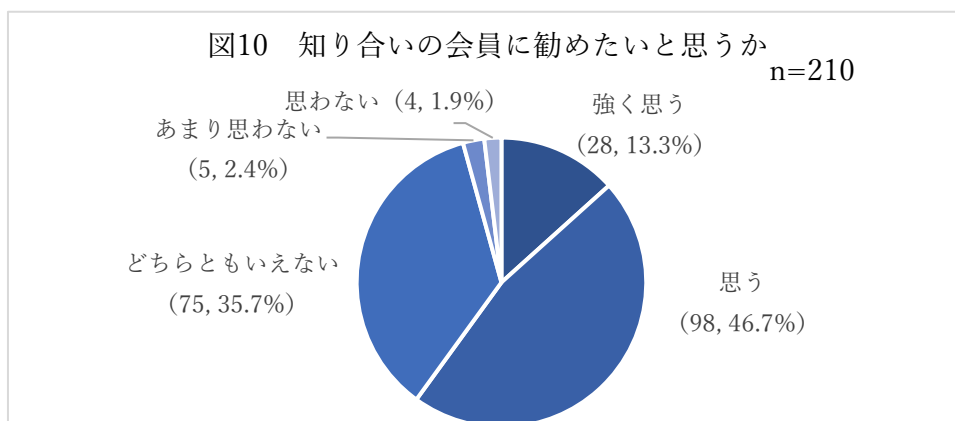
### (10) 集計結果や総括を見たことがない理由

ご自身が回答した運営サポーターアンケートの集計結果および総括を見たことが「ない」と回答した方を対象に、「集計結果や総括をご覧になったことがない理由をお聞かせください」と複数回答で質問した。最も多かったのは「どのように確認するか知らない」20件（43.5%）であり、次いで「集計結果や総括としてまとめられていることを知らない」18件（39.1%）だった。



### (11) 運営サポーターアンケートを知り合いの会員に勧めたいと思うか

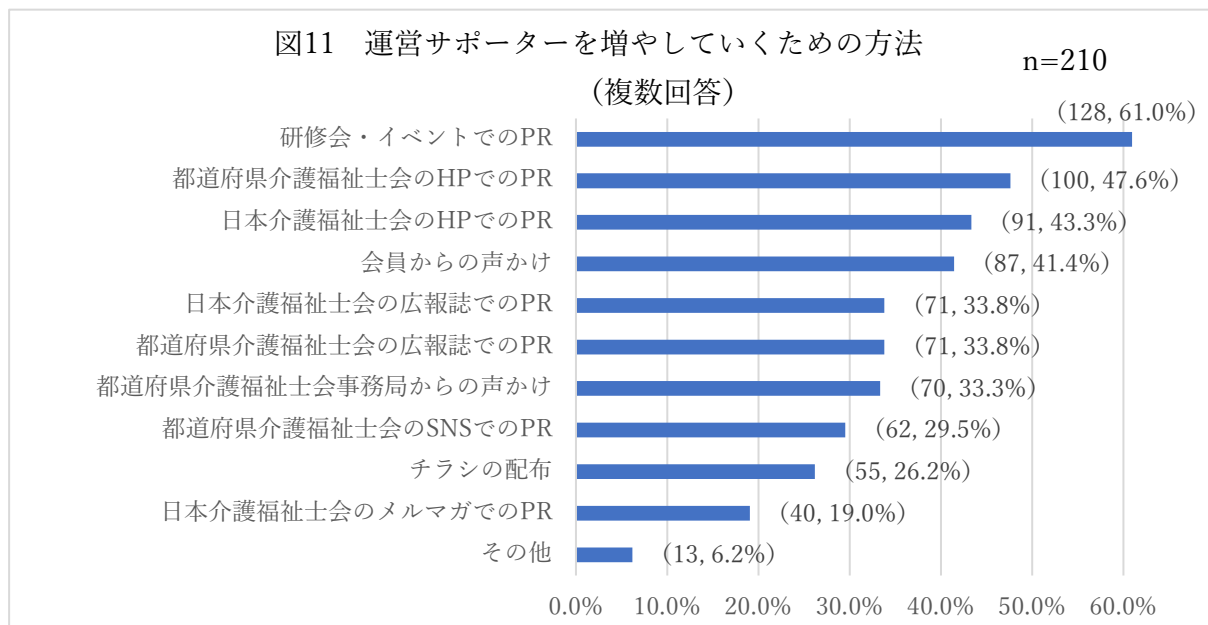
「運営サポーターアンケートを知り合いの会員に勧めたいと思いますか?」と質問したところ、「思う」98件（46.7%）が最も多かった。





## (12) 運営サポーターを増やしていくための方法

「運営サポーターの登録者数を増やしていくために、どのような方法があるかお聞かせください」と複数回答で質問した。最も多かったのは「研修会・イベントでのPR」128件（61.0%）であり、次いで「都道府県介護福祉士会のHPでのPR」100件（47.6%）だった。また、その他として、以下の回答があった。

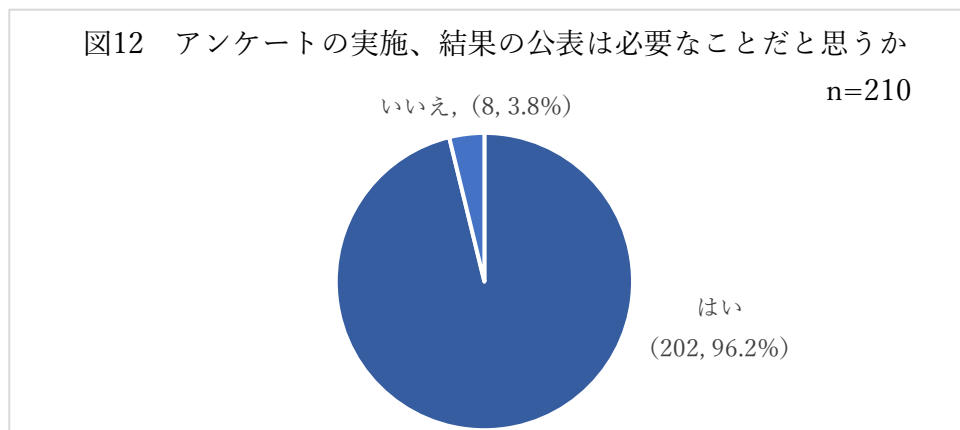


### (その他の回答)

- ・まずは介護福祉士の会員を増やす
- ・若い世代の会員・サポーター会員の増大を取り組む為にもYouTube、ティックトック、FB等でどんどんアピールしていく事はこの時代必須必であると考えます。
- ・会員になると同時にサポーターになる仕組み作りにする。と言うか、会員なら、職能団体に意見し、自分の将来、自分の仕事をより良くするのは、責務。
- ・アンケート回答したら抽選で何か特典があると増えると思う
- ・ポイント付与制度導入、都道府県介護福祉士会の役員は運営サポーターの登録を必須とする等
- ・YouTube
- ・アンケート結果の公表。(紙面も使うなど、介護福祉士の働く現場や管理者、社長に送付するなど)
- ・日本介護福祉士のnoteによるPR
- ・事業所団体に案内
- ・新聞などのメディアに取り上げてもらい、PRする。
- ・介護を学ぶ学生に知らせる(集計結果などを授業で使用する) → 介護福祉士合格後に案内する。と自然に入会するのでは？
- ・アンケートに答えるばかりでサポーターである意味がわからない
- ・サポーターや日本介護福祉士会そのものに興味も期待も持っていない介護福祉士にサポーターの話をしていても効果は無いと思う

### (13) アンケートの実施や、結果の公表は介護福祉士にとって必要なことか

「運営サポーターアンケートを実施し、集計結果などを社会に出すことは介護福祉士にとって必要なことと考えますか？」と質問したところ、「はい」202件(96.2%)、「いいえ」8件(3.8%)だった。



### (14) 運営サポーターアンケートに関するご意見

「その他、運営サポーターアンケートに関するご意見がございましたら、お教えてください」と自由記述式で質問した。回答を類似する内容で分類し、主な意見を以下に整理した。なお、明らかな誤字は修正するとともに、1つの回答の中に複数の内容が含まれている場合には分割した。

#### ○取組に対する評価等

- ・今後も続けてください。会員の意見を反映する大切なことと思います。
- ・介護福祉士の意見が直接国の政策に反映される数少ない機会と考えています。
- ・介護福祉士の「総意」をエビデンスにできる機能だと感じています。大変だと存じますが、継続していただきたいです。
- ・アンケートに答えるだけの活動ですが、顔の見える関係、仲間の顔を知る機会があると我々同志としても心強いと思います。

#### ○取組の在り方について

- ・運営サポーターという、ネーミングは変えた方が良く感じている
- ・質問17の「運営サポーターアンケートを実施し、集計結果などを社会に出すことは介護福祉士にとって必要なことと考えますか？」の問いに対して、①はいと回答したが、調査研究の内容としては、やはり物足りなさがある。

単年度で行う調査研究事業とは別に、調査研究活動を希望する「運営サポーターによる常設の研究部会」を立ち上げて、しっかりとした量的研究、質的研究の調査研究活動を展開したいところである。

その上で、集計結果などを社会に出していくということであれば、そもそも運営をサポートするという意味合いからしても、職能団体として、望ましい運営の体制には、少しずつ近づくのではないかと考える。

認定介護福祉士に活動の実践と報告が必要であるように、適材適所に「できるメンバー」「やれ

るメンバー」を配置していかないと、いつまで経っても、介護福祉士の社会的地位の確立は難しいだろう。

折角創設した運営サポーターアンケートの仕組みを活かして、今後のさらなる展開に期待したいところである。

- ・運営サポーターと頭についているのでアンケート以外の取り組みも有って良いと思います。例えば日介役員以外の若い世代の都道府県を越えた一般会員で作る何かしらの委員会(リモート会議等)を開催してみても面白いのではないのでしょうか。
- ・介護福祉士会が社会的立場、立ち位置を向上させていく為には必要な事を、志を持つ方の意見が届きやすい環境はどうするかを一緒に考えていきたい。情報発信の強化。魅力の向上の為にメディア活動を行うなど。

### ○運営サポーターの登録者数・回答者数について

- ・運営サポーターが少なすぎる
- ・数は力なので、多くのサポーターが集まることを期待しています。
- ・社会に出すことは重要だが影響を与えるのは数。回答者を増やすこと、会員を増やすことが喫緊の課題だと感じる。
- ・全国の介護福祉士資格取得者の数、正会員数を考えると、今の運営サポーターの母集団は、数が少な過ぎる。無関心な介護福祉士や正会員が多いという印象がある。
- ・もっとサポーターや会員を増やして行きましょう。中には批判的な意見もあると思いますが、それも大切な意見です。
- ・運営サポーターアンケートは非常に意義のあるアンケートだと思います。しかし、とにかく数が集まらないといけないアンケートである、とある会員の方は言われていました。時間と費用をかけるアンケートである以上、アンケートの存在をアピールしていく必要があると思います。(私も呼びかけていきたいと思っています)

### (登録者・回答者数を増やすための工夫)

- ・アンケートに参加している回答者数が少なすぎるため、抜本的に回答数を増やす施策を考えた方が良いと思う。これだけの回答数をもって介護福祉士の意見とするのは情けない。アンケートに答えたらポイントを付与するなど、策を考えて頂きたい。
- ・ポイントがついて何か少しでもオトク感があると増えるのではないのでしょうか…?

### (回答者の範囲について)

- ・運営サポーターの意見の集約等ありがとうございます。とても大切な事だとおもいます。そのうえで、かかわられている方は、わかられているかとは思いますが、一部の興味を持つ者の意見と言われる可能性もあります。必要な時は、会員全員にアンケートを取るという事もあるのだと思います。今後年1回ぐらいは検討していただければとも思います。
- ・会員以外の有資格者の回答も集められれば、分母が増えてより説得力が増すかと思えます。

## ○アンケートの構成等について

### (全体的なことについて)

- ・こういったアンケートだけでも息抜きになり、とても有意義に感じています。
- ・こういった簡単で率直な思いをアンケートでできるのが良いと思う  
項目が多かったり複雑だったり分かりにくい文は次のアンケートのリピーターにならない

ので、簡易な形が良いと思う

- ・できるだけ簡単に答えられるような工夫。自由記述が多いと面倒。
- ・パソコン操作は、視力低下を招くので、アンケートは数分以内に終わるものが良い。

### (アンケートのテーマや目的について)

- ・及川会長がせっかく給付費分科会に参加しているので、給付費分科会に向けた意見提言ができるような場が欲しかった。
- ・目的が明確なアンケートもありますが、このアンケートを回答することで何に繋がるのか、なども伝えて頂くと回答者に意図が伝わりやすいと思います。
- ・介護福祉士の専門性とよく言われていますが、正直なところ専門性の『専門』とはなにか理

解していない介護福祉士の多さ、世間でも介護福祉士の専門性などはどのような事なのか分かりにくいし、明確ではないところを改善していかなれるようなアンケートと結果に結び付けて欲しいと思います。

- ・現状を良い方向にするための建設的な意見を求めるものなど、厳しい現実にプラスになるものをお願いしたい。

### (登録者・回答者の勤務先種別に応じたテーマ等について)

- ・アンケート内容及びアンケート回答における対象種別の区分の仕方が高齢者関係若しくは介護保険従事者における区分になっている。

職種、職域、職名等に関し、障がい福祉サービスや自営等で活躍しその労務に携わっている介護福祉士が適正に自身の区分に該当するものを選択できるよう、表記、表現、質問項目を改善して欲しい。

例えば 介護支援専門員を記すなら、相談支援専門員も同列に記す。サービス提供責任

者を記すなら、サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者も記す。など 幅広いサポーターの意見を集約するならば、必要かと思えます。

- ・現在、介護現場にいないので回答しにくいことの方が多いです。
- ・先ほども申し上げましたが、医療機関勤務の介護福祉士にも目を向けてほしいと強く願っております

## ○結果の発信等について

### (結果の活用・発信について)

- ・集計結果など、どのように反映されているんですか？
- ・集計結果を社会に出していくことは大切ですが、アンケートから吸い上げた意見や考えを福祉士会の活動に活かしていければ良いと思います。
- ・集計結果などを HP でまとめて検索がしやすいようにしていただくと、気になった時に調べやすくなると思います。
- ・アンケートの比較、分析を広報誌などに載せていただくと参考になります。
- ・アンケートの結果を踏まえた取り組みについて

### (職能団体の意見としての、一層の発信・活用について)

- ・アンケート回答者を増やし、データとしての信頼性を高め、陳情など上手に使ってほしい
- ・介護福祉士の現場の声をもっと多く集めることが出来て様々な機関に発信していくことができれば良いと思います。
- ・とてもよいシステムだと思う。広く意見を吸い上げ、介護専門職団体として社会にアピールしてほしい。
- ・この活動を社会に周知していただき、介護福祉士会としての存在意義を示していただきたい
- ・データ分析が大変だと思いますが、介護福祉士の課題やニーズの可視化に有効だと感じています。可能な限り継続していただければと思います。
- ・今後も必要とする情報のとりまとめを行ない情報の発信をすることで全国の介護福祉士の意識の向上、質の向上、技術の向上が図れると良いですね。社会に認められる介護福祉士の育成を望みます。
- ・実際に声が反映されていると実感できれば入会動機にならないでしょうか。

### (アンケートを通じた発信について)

- ・世の中、社会に発信すべき内容、テーマの場合メディアを通してアピールしてほしい。
- ・質問 17 について、介護現場でのハラスメントや、虐待、身体拘束、不適切ケア、看取り介護、デジタル化などについて、介護現場で起きていることや介護福祉士が日々現場で感じていることを知ってもらうことは必要な事だと思います。
- ・介護福祉士の必要性、介護の専門性を社会に知ってほしい。
- ・介護福祉士の処遇改善を切に願います。
- ・介護福祉士の地位向上のために頑張ってください
- ・子どもたちも、そういう仕事があることを知るべき。  
小学校で認知症の理解学習がなされている今、是非一緒に広めてほしい。  
それくらい認知症介護はこれからもっと大変になると思う。

## ○その他

- ・私は薬剤師ですが、介護福祉士の方々とともに協働したいと思います。他の専門職への働きかけを増やすのも良いのかも感じました。
- ・特になし